【資料３－３】

（案）

「第３期北海道立美術館等作品収蔵計画」

（平成20年度策定）の評価

平成31年３月

道立美術館・道立釧路芸術館

目　　次

1　背景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2　評価結果
(1) 総括評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

① 作品収集に関する評価

② 作品活用に関する評価

(2) 館別評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

資料
1　作品収集状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

2　作品収集の成果と課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

3　収蔵作品活用状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

4　作品活用の成果と課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

1　背景

北海道教育委員会では、平成20年度に、向こう10年間（平成21年度～30年度）における各美術館と釧路芸術館の作品収集等の長期的・総合的な基本的方針を示した「第３期北海道立美術館等作品収蔵計画」を策定した。

ついては、今後10年間（平成31年度～40年度）の道立美術館及び道立釧路芸術館の作品収集の基本方針となる次期収蔵計画を策定する必要があることから、「第３期北海道立美術館等作品収蔵計画」（平成20年度策定）の成果等を検証し、評価を行う。

2　「第３期北海道立美術館等作品収蔵計画」（平成20年度策定）の評価

(1) 総括評価

① 作品収集に関する評価

第３期計画は、「コレクションの一層の充実と有効な活用を基本とし、将来の多様な発展への可能性にも目を向け、財政状況も勘案しながら、効率的に作品収集を行う」基本方針としている。

基本計画の１である、「北海道美術品取得基金による円滑かつ効率的な美術品の取得に努める」については、平成27年度、10年ぶりに基金を活用して美術品を購入（１館１点）したほか、平成29年度は「アートギャラリー北海道」事業展開に合わせ展覧会企画の多様化が図れるよう、美術品の購入（２館10点）を行い、鑑賞機会の充実を図った。

基本計画の２「作品所蔵家等からの受贈・受託」については、自主企画の展覧会がきっかけの受贈や、地域ゆかりの作家など、関係者からの受贈及び受託によりコレクションの充実を図ることができた分野があった。道立美術館等としての活動を通じて関係者から信頼を深めてきたことなどが、成果に繋がっている。

基本計画の３「多様な芸術文化の動向にも目を向け、幅広い観点からすぐれた作品を収集する」については、収集に当たって作品の量的向上とコレクションの質的向上を図ってきたが、メディア芸術など時代状況を示す新しい分野の作品収集に向け、今後とも情報収集に努める必要がある。

本道の芸術文化振興のため設置された道立美術館が、社会教育施設としての役割を果たすためにも、美術館活動の根幹である作品収集を今後も継続して進めて行く必要がある。

受贈による収集のみでは本来収集すべき作品の確保が困難であるため、基金を活用した購入について検討する必要がある。

また、美術館評価を通じたコレクションの充実や活用の改善を図っていくことも必要である。

② 作品活用に関する評価

作品の活用については、各館とも作品活用方針に基づき、館内外の積極的な活用に取り組んできたが、現方針・計画を維持しつつ、今後は、「アートギャラリー北海道」などを契機として、道立美術館のみならず道内市町村立・私立美術館等との連携をさらに密にして、相互の所蔵作品の貸借を円滑に進めるなど、館内外において所蔵品をより魅力的に紹介していくことが求められる。

教育普及活動については、平成24年度以降「出張アート教室」において収蔵作品を使った授業での鑑賞の手ほどきを行うなど、有効的に活用を行っている。

そうした収集、展示活動の礎を築き、維持していくためにも、広く美術についての調査研究を不断に行っていかなければならない。

また、作品情報の提供については、時流の方策に拠りながら収蔵作品のデータベースのインターネット上での公開等への取組みを含め、引き続き、広く道民への作品鑑賞の機会と情報提供を進めていく必要がある。

(2) 館別評価（収集から活用まで）

① 北海道立近代美術館

ア 作品の収集
受贈により897点、購入により３点の作品を収集することができた。

（ア）成果
a「北海道の美術」
本道の陶芸史を概観できる「江上コレクション」225点を、一括で受贈することができた。
これまで収蔵がなかったデザインの分野では、「栗谷川健一」の作品を一括して受贈、写真の分野でもまとまった数の作品を受贈するなど、作品の幅を広げることができた。
また、平成29年度には北海道美術品取得基金により江戸期の画家「蠣崎波響」の秀作２点を購入し、他にも、重要な作家の代表作を受贈されるなど、「北海道の美術」の収集を充実することができた。

b「日本近代の美術」
「エコール・ド・パリ」の作品とも関連づけられる、戦前戦後のパリで制作した「岡田謙三」、「荻須高徳」の作品や、本道の水彩画家にも影響を与えた「中西利雄」の作品などを収集することができた。

c「現代の美術」
パフォーマンスアートで知られた「秋山祐徳太子」、木彫作家として高い評価を得ている「三輪途道」と、全国的な知名度がある作家の作品を収集することができた。

d「エコール・ド・パリ」
平成20年の「レオナール・フジタ」展を契機として、未収蔵であった「モディリアーニ」のデッサン１点と「藤田嗣治」の重要作品３点を受贈することができた。
また、平成29年度には、「シャガール」の版画集「出エジプト記」のうち、特別に和紙に摺られた20部限定の希少な秀作を購入した。

e「ガラス工芸」
昭和57年～平成６年にトリエンナーレ形式で開催した「世界現代ガラス展」出品作家の作品を収集したコレクターから30点、「日本のガラス造形・昭和」展（昭和61年）出品作家のうち、「小柴外一」とその関連作品計100点及び「淡島雅吉」の作品66点を、それぞれの遺族から受贈することができた。

（イ）課題
「エコール・ド・パリ」や「ガラス工芸」については、コレクションの系統性を高めるとともに目玉となる作品を収集するため、引き続き情報収集を行うことが必要である。

イ 作品の活用
（ア）成果
所蔵品展「これくしょん・ぎゃらりい」において、ポスターとチラシを制作し広報を強化するなどの取組によって、当館のコレクションの特色と、それを生かした企画を行っていることを広く周知することができた。
また、館外での活用として、国内外の美術館に計3,750点の貸出しを行うなど、広く美術文化の向上に貢献するほか、「移動美術展」を当該10年間で21市町村で開催、322点の作品を展示、計14,409人の観覧者を数えるなど、日常的に美術館を訪れることができない地域の方々にも本物の美術作品と触れあう機会をつくった。

（イ）課題
道立の中央館として、「アートギャラリー北海道」などの活動を通じて、当館の作品のみならず、広く北海道全体の文化財をより効果的に活用すべく、道内諸機関との連携強化をリードしていく必要がある。

② 北海道立三岸好太郎美術館

ア 作品の収集

（ア）成果

a「三岸好太郎作品」

受贈により、「菊の花の静物」（昭和３年）、「ニコライ堂」（昭和６年）、「金蓮花」（昭和７年）の３点の作品を収集することができた。

（イ）課題

重点的な収集を計画していた最晩年の作品については、収集候補としてふさわしい代表作の情報はあったものの、収集することができなかった。

今後も、晩年の蝶や貝を題材とした作品や前衛的傾向の作品の収集を最優先とするとともに、晩年以外の時期においても、三岸の画業の各時期の特色を示す優れた内容の作品や資料の収集に努めていく。

（ウ）受託の活用

「植物園」（昭和３年）、「大通公園（北海道風景）」（昭和７年）、「金魚」（昭和８年）の計３点を所蔵者が寄託し、三岸の画業の各時期の作風を示すものとして、美術館での展示や研究にふさわしい収集品となった。

また、延べ受託作品数は５点で、受託（平成21年）から受贈（平成26年）となった作品「ニコライ堂」（昭和６年）もあり、受託制度の活用という点で一定の成果をあげることができた。

イ 作品の活用

（ア）成果

収蔵作品は、年間を通して所蔵品展や特別展のなかで展示し、新たに収蔵、受託となった６点も適宜、展示の機会を得て活用することができた。

三岸が日本近代美術史上の重要作家であることと、当館が所蔵品展を中心とする個人作家美術館であることから、収蔵作品の展示・貸出しでの活用率は非常に高い。

作品貸出しは延べ169点で、道内外の展覧会での三岸作品の展示に協力した。特に平成25年の「生誕110年　三岸好太郎展」は、道立函館美術館との連携協力により、代表作を含む多くの三岸作品を広く鑑賞してもらう機会となった。

また、平成27、28、29年度には全国の複数館巡回の企画展への三岸作品の貸出しを行い、三岸の全国的な知名度を高めるとともに、調査・研究の視点が広がる機会となった。

さらに、平成28年度には札幌市内中心部に民間と連携して三岸作品を常設展示するミギシサテライトを開設し、新たな鑑賞の場を提供した。

なお、展示と連動して作品情報の発信にも努め、広報印刷物や各種メディアでの情報掲載とともに、館のホームページで全三岸作品の基本情報と主要24作品の画像・解説およびミギシサテライトの展示作品を掲載している。

（イ）課題

収蔵作品、特に三岸の代表作や人気作品は活用頻度が極めて高いことから、作品保存の面で状態管理の配慮が必要である。

また、館外での「三岸好太郎展」開催時など、代表作や主要作品が不在となる場合があり、不在期間の展示においても魅力あるテーマ設定や展示構成の工夫、資料や複製などの活用が必要となる。

館外展示による三岸作品鑑賞機会の拡大の意義を踏まえつつ、貸出しと館内展示とのバランスを考慮した運営が課題である。

③　北海道立旭川美術館

ア　作品の収集

73点の作品を収集することができた。

特に、道北にゆかりのある重要作家や評価の高い作家らの絵画や彫刻を収集することにより、コレクションのの幅を広げることができた。

（ア）成果

ａ「道北の美術」

「朝倉力男」（油彩）　や「山口健智」（油彩）、「因藤壽」（油彩）、「一ノ戸ヨシノリ」（水彩・素描）らの重要作品や、「福井爽人」（日本画）の代表的作品をまとめて受贈することができた。

また、「木原康行」（版画）の貴重な資料を収集し、より深く作家を検証することが可能となった。

ｂ「木の造形」

戦後のモダンアートに独自の足跡を残した「井田照一」（油彩・彫塑）の木を中心とした作品群の収蔵や、現代木彫界における重要作家の一人である「土屋仁応」（彫塑）の作品が平成28年度に初収蔵されたことで、コレクションに幅を与えることができた。

また、国内有数の家具産地として名高い旭川家具の優品や「君の椅子」プロジェクトの活動から創出された椅子の継続的な受入れは、「道北の美術」の充実であるとともに、デザイン領域への踏み込みとして、今後のコレクション形成への足がかりとなった。

なお、平成29年度に「道北の美術」「木の造形」両方にまたがる重要作家である「砂澤ビッキ」（彫塑、水彩・素描）の作品７点を購入した。

（イ）課題

絵画コレクションについて、初期旭川画壇から現代までと、未収蔵作家、現在活躍している中堅若手作家なども視野に入れながら、広範囲に系統的な収集を進めていく必要がある。

また、「木の造形」作品は、伝統工芸から現代美術まで市場に流通するものが多く、情報収集に努めていく必要がある。

イ．作品の活用

（ア）成果

平成22年度に北海道立近代美術館で開催した「創造と回帰　現代木彫の潮流」では、全作品50点中、当館の現代木彫作品が27点となるなど、日本の現代木彫の潮流を紹介しうる作品として活用することができた。

（イ）課題

「木の造形」は重量があり体積も大きな作品が多いため、貸出しや館内展示においては、活用と保全相互の視点からの検討が必要である。

④　北海道立函館美術館

ア　作品の収集

198点の作品を収集することができた。

特に、平成27年度に当館の開館30周年及び北海道新幹線の開通を機に、蠣崎波響の代表作のひとつ「名鷹図」を購入することができた。

（ア）成果

ａ「道南の美術」

蠣崎波響「名鷹図」の購入により波響コレクションは５点となり、作品にまとまりが生まれるとともに、「道南の美術」コレクションの大きな眼玉ができた。

また、平成23年の「道南の美術21世紀」展出品作家や個展開催作家から秀作の寄贈を得たことにより、近世から現在まで、「道南の美術」の流れを概観することのできるコレクションとなった。

ｂ「東洋美術と書」

「松本春子」、「大川壽美子」など、北海道の「かな」書壇の代表作家の秀作を収集することで、この分野の充実をはかることができた。

また、近代詩文書の人気作家である「石飛博光」の作品がまとまって寄贈されたのに加え、「金子鷗亭」と「荒川武夫」のコラボレーションによる陶芸作品（既収蔵）にまつわる書作品が荒川武夫の遺族から寄贈されたことにより、既存のコレクションの背景を深く掘り下げることのできる貴重な収集となった。

（イ）課題

ａ「道南の美術」

幕末から明治にかけての重要作家である「横山松三郎」や、物故した「折原久左エ門」など、収集が実現していない作家の作品があるため、引き続き情報収集に努めていく。

ｂ「現代美術」

既に収蔵されている作品は一定の水準を保つことができているが、作品収集はできず、作品数が45点と少ないため、量の確保が大きな課題である。地道に情報収集を行ない、購入の機会が得られる際には、速やかに対応できるよう準備を進める必要がある。

ｃ「東洋美術と書」

さらに体系的なコレクションの形成を目指し、書の表現分野のバランスに目配りしながら、収集を行うとともに、未収集の北海道の書家の秀作についても収集に努める必要がある。

イ　作品の活用

（ア）成果

道内外の美術館等との連携企画展を開催することにより、当館のコレクションの認知度を高め一定の成果をあげることができた。

特に、彫刻作品に直接手で触れることのできる「アートにタッチ」コーナーや、ホールでのお茶会イベントでのコレクションの活用など、展示室以外の場所でのコレクションの柔軟な活用について、一定の成果をあげることができた。

平成28年度に作成した「道南版アート・カード」については、平成28年度は４校、平成29年度は５校に貸出し、学校での当館のコレクションの鑑賞学習の充実に貢献した。

加えて、平成29年度の「波響ぐるっと４館ツアー」のような、当館と地元の寺院、博物館、伝統的建造物の作品を鑑賞しながら巡り歩く試みは、作品を移動させるのではなく、参加者に移動してもらう点で、輸送費を伴わない鑑賞機会の創出であり、他館のコレクションの付加価値を取り込むことによる来館者の誘致は、今後も有効な事業である。

（イ）課題

道南地域は、美術館以外の場所（博物館、寺社、レストラン、観光施設）に文化財が多く所蔵されている点が、大きな特色である。

今後、こうした地域の施設との連携をさらに進めていくことで、当館の作品の活用につなげていく必要がある。

⑤　北海道立帯広美術館

ア　作品の収集

（ア）成果

a「道東の美術」

「十勝の美術クロニクル」、「道東アートファイル2013 in the LIGHT in the SHADOW」、「思考するアート展／コトバノカタチ」の開催を契機に、21点の作品を受贈することができた。

また、道東ゆかりの作家「中谷有逸」、「森健二」、「梅田マサノリ」、「能勢眞美」、「矢柳剛」、「羽生輝」の作品12点を収集することができた。

b「プリントアート」

「はな展 四季の花･幻想の華」、「山に魅せられた画家たち」、「思考するアート展／コトバノカタチ」「FACE／わたしとあなた」の開催を契機に29点の作品を収集した。

平成22年度には、帯広美術館ボランティア「しらかばの会」より、開館20周年を記念して、現代日本を代表する版画家「小林敬生」、「島州一」及び「野田哲也」の作品６点を寄贈いただいた。

また、日本版画史に大きな足跡を残した「井田照一」の遺族から45点のまとまった作品群を寄贈いただいたほか、北海道におけるグラフィック･デザイン界の草分けで日本を代表するデザイナー「栗谷川健一」のポスター原画４点を収集することができた。

（イ）課題

「道東の美術」については、未収蔵の作家も多いため、明治以降の道東の美術の系統的な収集や、現在活躍中の中堅･若手作家なども視野に入れた収集を、調査･研究に基づき進めていく必要がある。

「プリントアート」では、戦後から今日まで多様な展開を見せている国内外のプリントアート（デザイン分野も含む）の収集を図り、各分野の体系的なコレクションの構築を進めていく必要がある。

「西洋の美術」では、収集できていない状況にあり、収集の実現に向けて各方面からの情報収集に努めていく。

イ　作品の活用

（ア）成果

主展示室において、ほぼ毎年２本、所蔵作品を用いて美術史的な切り口によるテーマ展や教育普及的な企画展を開催し、所蔵作品の積極的な活用を図ることができた。

また、道内外へ275点の作品の貸出しをすることができた。

（イ）課題

所蔵品によるテーマ展の企画にあたっては、未収蔵の作家の作品や十勝を拠点とする多くの現代作家たちの作品なども借用し、新鮮さと広がりを加えていくことが求められる。

⑥　北海道立釧路芸術館

ア　作品の収集

（ア）成果

収集は寄贈のみであったが、「映像芸術」30点（写真のシリーズものが多いため個別の数では126点）、「自然と芸術」２点、「地域と芸術」17点、合計49点の収集を実現し、作品総数は90点から139点に増加した。

特に写真のコレクションは、自館のみならず他館でもひとつの展覧会が開催可能になるほどに充実の度合いを増した。

また、「地域と芸術」においては、これまで未収蔵の作家の作品や未収蔵の時期の作品を収集し、コレクションの幅を広げ系統性を高めることができた。

（イ）課題

ａ「映像芸術」

写真の収集は、北海道ゆかり作家の企画展が契機となった。そのため、内容が北海道関係に偏ったことから、今後の課題は北海道に限らず、国内外を視野に入れながらコレクションの系統性を高めていくことにある。

また、映像の分野では、現在のところ収蔵作品がないことから、作品調査と収蔵・活用上の諸問題（展示形態、保存方法、諸権利等）の整理を進めることが課題である。

ｂ「自然と芸術」

この方針に基づく過去の収蔵作品は、現代日本の絵画や版画が中心であり、これらは寄贈による収集が困難であるため、コレクションとして充実させるには至らなかった。

今後は絵画と版画以外の分野についても調査の機会をとらえながら、現代における表現の多様性を視野に入れた収集活動に、粘り強く取り組むことが課題である。

ｃ「地域と芸術」

地域の作家や所蔵者の好意により受贈が比較的実現しやすい分野ではあるが、受贈のみでは収集にふさわしい作家の網羅が難しいため、今のままでは収蔵作家の偏りが高まるおそれがある。そうした事態に注意しながら、幅広く系統的なコレクションの形成に向かって、地域の美術を継続的かつ適切な方法で収集することが課題である。

イ　作品の活用

（ア）成果

所蔵品による展覧会を毎年１、２回、様々な企画性を持たせて開催してきた。また、根室市での「移動芸術館」、道内外への多数の作品貸出を行った。

特に、当館の写真コレクションのみによる展覧会が網走市と長野県安曇野市で開催されたことは、写真コレクションが一定の質と量に至ったことに対する他館からの評価と言える。

また、平成24年度から始まった「出張アート教室」では、平成29年度までに釧根地域の２市４町、13の小・中学校で開催し、児童生徒が所蔵品に対する関心と理解を深めることができた。

（イ）課題

コレクションは小規模であるため、質及び量の充実が大きな課題である。

また、当館は常設展示室を持たないため、来館者が所蔵品に親しむ機会の拡充を図ることについて、工夫が必要である。

資料1－1

作品収集状況

①分野別作品収集状況

平成30年3月末現在

区　分		近代美術館	三岸美術館	旭川美術館	函館美術館	帯広美術館	釧路芸術館	計
平成20年度末所蔵数		4,318	252	623	1,644	681	90	7,608
H21年度～H29年度	油彩	70	3	11	73	21	4	182
	日本画	14	0	5	6	2	3	30
	東洋画	0	0	0	0	0	0	0
	水彩・素描	59	0	8	8	4	4	83
	版画	26	0	11	17	79	4	137
	彫刻	13	0	23	9	2	4	51
	工芸	436	0	15	2	0	0	453
	書	0	0	0	82	0	0	82
	デザイン	231	0	0	0	4	0	235
	写真	51	0	0	1	5	30	87
	小計	900	3	73	198	117	49	1,340
合　計		5,218	255	696	1,842	798	139	8,948

②基金購入による分野別作品収集状況（①の内数）

平成30年3月末現在

区　分		近代美術館	三岸美術館	旭川美術館	函館美術館	帯広美術館	釧路芸術館	計
平成20年度末購入数		224	1	78	169	129	38	639
H21年度～H29年度	油彩	0	0	0	0	0	0	0
	日本画	2	0	0	1	0	0	3
	東洋画	0	0	0	0	0	0	0
	水彩・素描	0	0	3	0	0	0	3
	版画	1	0	0	0	0	0	1
	彫刻	0	0	4	0	0	0	4
	工芸	0	0	0	0	0	0	0
	書	0	0	0	0	0	0	0
	デザイン	0	0	0	0	0	0	0
	写真	0	0	0	0	0	0	0
	小計	3	0	7	1	0	0	11
合　計		227	1	85	170	129	38	650

③地域別作品収集状況

平成30年3月末現在

区　分		近代美術館	三岸美術館	旭川美術館	函館美術館	帯広美術館	釧路芸術館	計
平成20年度末所蔵数		4,318	252	623	1,644	681	90	7,608
H21年度～H29年度	北海道	675	3	49	196	58	43	1,024
	日本	182	0	24	2	59	0	267
	海外	43	0	0	0	0	6	49
	小計	900	3	73	198	117	49	1,340
合　計		5,218	255	696	1,842	798	139	8,948

資料1－2

④特色別作品収集状況

区分		近代美術館							三岸美術館			旭川美術館				函館美術館					帯広美術館					釧路芸術館					合計	累計
		北海道の美術	日本近代の美術	エコール・ド・パリ	ガラス工芸	現代の美術	その他	小計	三岸好太郎作品	その他	小計	道北の美術	木の造形	その他	小計	道南の美術	現代美術	東洋美術と書	その他	小計	道東の美術	プリントアート	西洋の美術	その他	小計	映像芸術	自然と芸術	地域と芸術	その他	小計		
平成20年度末所蔵数		1,774	413	283	1,041	44	763	4,318	251	1	252	326	206	91	623	654	45	783	162	1,644	255	400	14	12	681	21	26	43	0	90	7,608	7,608
年度別収集数	H21	16	2	0	0	0	0	18	1	0	1	7	1	0	8	9	0	20	0	29	0	3	0	0	3	6	0	0	0	6	65	7,673
	H22	17	8	3	1	0	0	29	0	0	0	9	3	0	12	7	0	8	0	15	0	6	0	0	6	0	0	10	0	10	72	7,745
	H23	46	1	0	0	0	0	47	0	0	0	3	2	0	5	14	0	3	0	17	12	0	0	0	12	0	0	1	0	1	82	7,827
	H24	21	0	1	99	4	0	125	0	0	0	0	21	7	28	54	0	0	2	56	5	0	0	0	5	5	0	1	0	6	220	8,047
	H25	242	0	1	32	0	3	278	0	0	0	3	1	0	4	6	0	40	0	46	3	61	0	0	64	7	2	0	0	9	401	8,448
	H26	232	0	0	0	0	0	232	1	0	1	0	1	0	1	13	0	0	0	13	8	4	0	0	12	12	0	1	0	13	272	8,720
	H27	67	0	0	0	0	0	67	1	0	1	2	1	0	3	3	0	7	0	10	0	2	0	0	2	0	0	1	0	1	84	8,804
	H28	11	0	0	67	0	0	78	0	0	0	0	2	0	2	7	0	1	0	8	5	0	0	0	5	0	0	2	0	2	95	8,899
	H29	22	3	1	0	0	0	26	0	0	0	1	9	0	10	1	0	3	0	4	0	8	0	0	8	0	0	1	0	1	49	8,948
	小計	674	14	6	199	4	3	900	3	0	3	25	41	7	73	114	0	82	2	198	33	84	0	0	117	30	2	17	0	49	1,340	
合計		2,448	427	289	1,240	48	766	5,218	254	1	255	351	247	98	696	768	45	865	164	1,842	288	484	14	12	798	51	28	60	0	139	8,948	

⑤基金購入による特色別作品収集状況(④の内数)

区分		近代美術館							三岸美術館			旭川美術館				函館美術館					帯広美術館					釧路芸術館					合計	累計
		北海道の美術	日本近代の美術	エコール・ド・パリ	ガラス工芸	現代の美術	その他	小計	三岸好太郎作品	その他	小計	道北の美術	木の造形	その他	小計	道南の美術	現代美術	東洋美術と書	その他	小計	道東の美術	プリントアート	西洋の美術	その他	小計	映像芸術	自然と芸術	地域と芸術	その他	小計		
平成20年度末購入数		135	8	13	64	3	1	224	1	0	1	15	63	0	78	137	32	0	0	169	17	107	5	0	129	14	13	11	0	38	639	639
年度別購入数	H21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	639
	H22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	639
	H23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	639
	H24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	639
	H25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	639
	H26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	639
	H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	640
	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	640
	H29	2	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	7	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	650
	小計	2	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	7	0	7	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	
合計		137	8	14	64	3	1	227	1	0	1	15	70	0	85	138	32	0	0	170	17	107	5	0	129	14	13	11	0	38	650	

資料1－3

⑥分野・特色別作品収集状況

平成30年3月末現在

区分	近代美術館							三岸美術館			旭川美術館				函館美術館					帯広美術館					釧路芸術館					合計
	北海道の美術	日本近代の美術	エコール・ド・パリ	ガラス工芸	現代の美術	その他	小計	三岸好太郎作品	その他	小計	道北の美術	木の造形	その他	小計	道南の美術	現代美術	東洋美術と書	その他	小計	道東の美術	プリントアート	西洋の美術	その他	小計	映像芸術	自然と芸術	地域と芸術	その他	小計	
油彩	683	45	50	0	15	3	796	86	1	87	120	3	42	165	345	12	0	23	380	78	0	9	1	88	0	15	23	0	38	1,554
日本画	213	52	0	0	0	1	266	0	0	0	16	0	2	18	32	0	0	18	50	7	0	0	3	10	0	6	9	0	15	359
東洋画	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28
水彩・素描	211	20	92	0	1	4	328	158	0	158	144	18	4	166	25	0	0	8	33	21	0	5	7	33	0	1	4	0	5	723
版画	653	257	145	0	23	665	1,743	10	0	10	56	12	47	115	344	25	0	64	433	167	182	0	0	349	0	4	10	0	14	2,664
彫刻	85	10	1	0	8	4	108	0	0	0	10	126	3	139	16	1	0	24	41	14	0	0	1	15	0	2	14	0	16	319
工芸	322	42	1	1,240	1	89	1,695	0	0	0	4	87	0	91	2	5	132	27	166	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1,953
書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	704	0	705	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	705
デザイン	231	0	0	0	0	0	231	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	255	0	0	255	0	0	0	0	0	486
写真	50	1	0	0	0	0	51	0	0	0	1	1	0	2	4	1	0	0	5	0	47	0	0	47	51	0	0	0	51	156
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	2,448	427	289	1,240	48	766	5,218	254	1	255	351	247	98	696	768	45	865	164	1,842	288	484	14	12	798	51	28	60	0	139	8,948

資料２

作品収集の成果と課題（各館の項目毎に作成）

館名：北海道立近代美術館

項　　目	１　北海道の美術
計　画　内　容	重要な作家や未収蔵の作家の作品、収蔵数の少ない分野の作品を収集する。デザイン、工芸、写真、映像などの分野にも重点を置くとともに、すぐれた中堅、若手作家の作品を収集する。また、北海道を創作の拠点とする道外作家の作品を収集する。
収集作品点数 （平成２１～２９年度）	６７４点 （購入２点、受贈６７２点、管理換０点）
主な収集作品 （平成２１年度～２９年度 ５点程度） ※作者名「作品名」（制作年）	桂川寛「Globalscape」（1984年） 箱館焼「染付湯呑茶碗・唐太之内ヲナヨボロ」（1860年） 栗谷川健一「スキーの源流」（1966年） 露口啓二「地名シリーズ」（1999-2003年） 蠣崎波響「狆鉄線花図」（1804-18年頃）
主　な　成　果	未収蔵であった桂川寛をはじめ、重要な作家の代表作を受贈した。 工芸では、本道陶芸史を概観できる「江上コレクション」225点を、これまで未収蔵だったデザインの分野では栗谷川健一の作品を一括して受贈、写真の分野でも露口啓二の作品などを受贈したほか、江戸期の画家蠣崎波響の秀作２点を購入した。
残された課題と今後の方向性	重点分野のうち、デザイン、写真、映像については、さらなるコレクションの充実を目指し、今後も調査を継続する。 若手・中堅作家については、北海道美術の動向をふまえながら、継続的な収集に努める必要がある。

項　　目	２　日本近代の美術
計　画　内　容	北海道の美術動向、およびコレクションと関連する、すぐれた作品を機会をとらえて収集する。
収集作品点数 （平成２１～２９年度）	１４点 （購入０点、受贈１４点、管理換０点）
主な収集作品 （平成２１年度～２９年度 ５点程度） ※作者名「作品名」（制作年）	岡田謙三「野外習作」（1935年） 中西利雄「札幌の夏（北大構内）」（1939年） 木村伊兵衛「江賀寅三」（1965年） 郭徳俊「オバマと郭」（2009年） 荻須高徳「薪炭屋」（1954年）
主　な　成　果	本道の水彩画家たちに影響を与えた作家や、これまで収蔵してきた版画シリーズの最新作、大規模な個展に出品された秀作など価値ある作品を収集することができた。
残された課題と今後の方向性	特に本道ゆかりの作家と師弟関係にあった作家や活動を通じ深い関係のあった作家、本道を題材とした作家等に注目し、当館の日本近代コレクション全体としての系統性を高める収集を継続する必要がある。

※購入とは、道の収集基金等で購入したもの、管理換とは道の他部局から管理換されたものとする。

資料２

作品収集の成果と課題（各館の項目毎に作成）

館名：北海道立近代美術館

項　　目	３　エコール・ド・パリ
計　画　内　容	未収蔵作家や収蔵数の少ない作家の作品とともに、1920年代前後のパリを舞台に活躍した関連作家の作品を収集する。
収集作品点数 （平成２１～２９年度）	６点 （購入１点、受贈５点、管理換０点）
主な収集作品 （平成２１年度～２９年度 ５点程度） ※作者名「作品名」（制作年）	藤田嗣治「平和の聖母礼拝堂」（1966年） 同上　「家族の肖像」（1954年） 同上　「猫」（1934年） アメデオ・モディリアーニ「フジタの肖像」（1919年） マルク・シャガール「出エジプト記」（1966年）
主　な　成　果	未収蔵作家であったモディリアーニについて、デッサン１点を収集し、収蔵点数が少なかった藤田嗣治については、晩年の重要な油彩１点を含む４点を収集した。 また、シャガールの版画集「出エジプト記」のうち、特別に和紙に摺られた20部限定の希少な秀作を購入した。
残された課題と今後の方向性	モディリアーニの油彩のような代表作家の重要作品、及び1920年代前後のパリの関連作家の作品の収集が、引き続き課題である。 今後も展覧会のための調査や所蔵者との信頼関係の構築を収集につながる好機ととらえ、作品受贈につながるような機会の創出に努めていく。

項　　目	４　ガラス工芸
計　画　内　容	アール・ヌーヴォー期、アール・デコ期以降の海外の近現代ガラス、および現代日本のガラス工芸を収集する。
収集作品点数 （平成２１～２９年度）	１９９点 （購入０点、受贈１９９点、管理換０点）
主な収集作品 （平成２１年度～２９年度 ５点程度） ※作者名「作品名」（制作年）	カーティス・ブロック「からみあう石のグループ」（1997年） ベッティル・ヴァッリーン「ボート」（制作年不詳） ヤン・ゾリチャック「天上の花　16」（制作年不詳） 小柴外一「亀甲おもだか文茶碗」（1966年頃） 淡島雅吉「しづくガラス シャンペン・グラス」（1950年頃）
主　な　成　果	海外の現代ガラスについては、1970年代から1990年代の作品30点を受贈することができた。日本のガラスでは、小柴外一とその関連作品計100点と、未収蔵であった淡島雅吉の作品66点の受贈によって、昭和期のガラスのコレクションが充実した。
残された課題と今後の方向性	アール・ヌーヴォー期とアール・デコ期の海外のガラス、並びに現代日本のガラス工芸については、今期の収集が実現しておらず、秀作の収集が引き続き課題である。 主体的な作品収集のため、引き続き情報収集と調査が必要である。

※購入とは、道の収集基金等で購入したもの、管理換とは道の他部局から管理換されたものとする。

資料２

作品収集の成果と課題（各館の項目毎に作成）

館名：北海道立近代美術館

項　　目	５　現代の美術
計　画　内　容	1960年代以降に活躍し、北海道の美術動向と関連した現代作家の作品を収集するとともに、多様な分野の作品を機会をとらえて収集する。
収集作品点数 （平成２１～２９年度）	４点 （購入０点、受贈４点、管理換０点）
主な収集作品 （平成２１年度～２９年度 ５点程度） ※作者名「作品名」（制作年）	秋山祐徳太子「東京都知事選立候補ポスター（３種類）」 （1975年、1975年、1979年） 三輪途道「月の舟」（1994年）
主　な　成　果	1960年代以降に全国的にさかんとなったパフォーマンスを代表する秋山祐徳太子と、木を素材とする現代彫刻家として評価を得ている三輪途道の作品の収集により、現代の美術コレクションに幅を加えることができた。
残された課題と今後の方向性	北海道の1960年代以降の現代美術の多様な動向をより深く紹介するため、情報収集に努める。

※購入とは、道の収集基金等で購入したもの、管理換とは道の他部局から管理換されたものとする。

資料２

作品収集の成果と課題（各館の項目毎に作成）

館名：北海道立三岸好太郎美術館

項　　目	１　三岸好太郎作品	
計　画　内　容	コレクションの中で比較的層の薄かった晩年の作品を中心に収集に努めてきたが、質量ともにいまだ不十分であり、収集可能な作品が明らかになった場合に、作品収集基本方針に沿い、その都度収集する。	
収集作品点数 （平成２１～２９年度）	３点 （購入０点、受贈３点、管理換０点）	※受託３点
主な収集作品 （平成２１年度～２９年度 ５点程度） ※作者名「作品名」（制作年）	三岸好太郎「菊の花の静物」（1928年） 同上　「ニコライ堂」（1931年） 同上　「金蓮花」（1932年）	三岸好太郎 「植物園」（1928年） 「大通公園（北海道風景）」（1932年） 「金魚」（1933年）
主な成果	花を主題とする作品について、収蔵作品（複数）より早い年代及び同年代の計２点が受贈となり、三岸の表現の展開を検証する上で役立つものとなった。 また、受託から受贈へ発展した作品１点はそれまで未収蔵の東京都市部を描いた風景画であり、三岸の画業をたどる上で貴重である。 なお、新たな受託が３点増えて、計５点となり、受託制度の活用という点で成果があった。	
残された課題と今後の方向性	作品保存の観点にも配意しつつ、三岸好太郎の画業を通覧するための展示には、画業の顕彰にふさわしい質の作品及び充分な量（作品数）が必要だが、そうした観点では三岸の画業各期における作品の十分な収集には至っていない。 今後も引き続き、それら対象作品の情報を集め、収集に努めるものとし、特に最晩年に関わる重要作品を重点的に収集する。 また、受託制度の積極的な活用にも引き続き努める。	

※購入とは、道の収集基金等で購入したもの、管理換とは道の他部局から管理換されたものとする。

資料２

作品収集の成果と課題（各館の項目毎に作成）

館名：北海道立旭川美術館

項　　目	１　道北の美術
計　画　内　容	道北ゆかりの重要な作家や未収蔵の作家を中心に、特に戦後間もない北海道アンデパンダン以後の作家や、従来主な対象としてきた絵画・彫刻・版画の他にも写真やデザイン等の分野についても調査を深め、系統的な収集を行う。
収集作品点数 （平成２１～２９年度）	２６点 （購入０点、受贈２６点、管理換０点）
主な収集作品 （平成２１年度～２９年度 ５点程度） ※作者名「作品名」（制作年）	朝倉力男「河畔吹雪去る」（1946年） 山口健智「紙片など」（1972年） 福井爽人「沼の風景」（2002年） 難波田龍起「生」（1961年） あべ弘士「エゾオオカミ物語」絵本原画（2008年）
主　な　成　果	朝倉力男、山口健智ら地元ゆかり作家の作品や、福井爽人の代表的な作品をまとめて収集し、日本を代表する絵本作家の一人で旭川在住のあべ弘士の絵本原画を初収蔵することができた。 また、難波田龍起の未収蔵時期の作品を収集したことで、系統性をもったコレクションとなった。
残された課題と今後の方向性	引き続き、道北ゆかりの作家の作品や写真・デザイン等の分野における調査と系統的な収集を進めるよう努める。

項　　目	２　木の造形
計　画　内　容	木を素材とした近現代の彫刻や工芸等について、重要な作家や未収蔵の作家の作品を中心に収集する。特に現代の美術動向との関連性も視野に入れながら、若手・中堅作家についても調査を深め、幅広い収集を行う。
収集作品点数 （平成２１～２９年度）	４０点 （購入７点、受贈３３点、管理換０点）
主な収集作品 （平成２１年度～２９年度 ５点程度） ※作者名「作品名」（制作年）	デザイン、横田哲郎/制作、株式会社インテリジェンス「シープ・チェア（デザイン2008年/制作2011年） 土屋仁応「麒麟」2017年 砂澤ビッキ「鳥の巣（椅子）」（1980年） 同上　「四季の面」（1988年） 同上　「風の王と王妃」（1988年）
主　な　成　果	国内有数の家具産地として名高い旭川家具の優品等の収集は、コレクションに幅を与えるものとなった。 また、「道北の美術」の重要作家でもある砂澤ビッキの木彫作品４点を購入した。
残された課題と今後の方向性	現代木彫や工芸分野の重要な作家や未収録作家の収集を継続しながら、若手・中堅作家についても調査を進め、幅広く収集を行う。

※購入とは、道の収集基金等で購入したもの、管理換とは道の他部局から管理換されたものとする。

資料２

作品収集の成果と課題（各館の項目毎に作成）

館名：北海道立函館美術館

項　　目	１　道南の美術
計　画　内　容	従来から行ってきた、道南ゆかりの代表的作家の作品を中心とした収集を継続するとともに、未収蔵の作家や新進作家のすぐれた作品を収集する。 また、函館や道南地域の歴史・風土・人々等と関連する収集を機会をとらえて行う。
収集作品点数 （平成２１～２９年度）	１１４点 （購入１点、受贈１１０点、管理換３点）
主な収集作品 （平成２１年度～２９年度 ５点程度） ※作者名「作品名」（制作年）	蠣崎波響「名鷹図」（1815年） 植木蒼悦「下界凝視」（1971年） 瀬戸英樹「海峡からの潮風」（2014～2015年） 鈴木秀明「翔」（2008年） 小寺真知子「三つの時代」（1990年）
主　な　成　果	蠣崎波響の代表作「名鷹図」の購入により、道南の美術コレクションに大きな眼玉ができた。 また、「道南美術の21世紀」展出品作家や、個展開催作家からの寄贈により、現在活躍中の世代の力作も収集することができ、道南の美術史を近世から現代に至るまで概観することのできる、層の厚いコレクションとなった。
残された課題と今後の方向性	横山松三郎など、美術史上重要な位置を占め、継続して収集すべき代表的な作家や、未収蔵作家の中でも、物故した折原久左エ門、活躍中の外山欽平といった現代の代表的作家の収集を実現できるよう、情報収集に努めていく。

項　　目	２　現代美術
計　画　内　容	文字･記号と美術との関わりを新たな視点でとらえ、表現様式において文字･記号と関わるすぐれた作品を、現代作家を中心に収集するとともに、近代以前の表現にも眼を向けて、ユニークなコレクションを充実させる。 また、現代美術の多様な動向と発展および今日的な表現領域等を視野においた収集を機会をとらえて行う。
収集作品点数 （平成２１～２９年度）	０点 （購入０点、受贈０点、管理換０点）
主な収集作品 （平成２１年度～２９年度 ５点程度）	収集作品なし。
主　な　成　果	情報、作品とも入手に至らなかった。
残された課題と今後の方向性	文字･記号に関わる現代美術の作品は、市場に流通するものが主流であるため、情報収集に努めていく。

※購入とは、道の収集基金等で購入したもの、管理換とは道の他部局から管理換されたものとする。

資料２

作品収集の成果と課題（各館の項目毎に作成）

館名：北海道立函館美術館

項　　目	３　東洋美術と書
計　画　内　容	従来からの鷗亭コレクションを中心とした東洋美術と書の収集については、より体系的な観点から各分野の拡充を図る。
収集作品点数 （平成２１～２９年度）	８２点 （購入０点、受贈８０点、管理換２点）
主な収集作品 （平成２１年度～２９年度 ５点程度） ※作者名「作品名」（制作年）	加納守拙「獨對一牀書」（制作年不詳） 松本春子「自詠　知床にて」（1972年） 石飛博光「TSUNAMI」（2001年） 金子鷗亭「抱朴含真」（1984年頃） 大川壽美子「源氏物語　澪標抄／薄雲抄」（2016年）
主　な　成　果	北海道の「かな」書壇を牽引してきた書道家の重要作や人気の高い書道家の作品もまとまった収蔵が実現できた。 また、陶芸家･荒川武夫の陶磁に金子鷗亭が揮毫したコラボレーション作品が９点収蔵されたが、荒川武夫に対してコラボレーションへの感謝の気持ちを込めて贈った書作品が、荒川武夫の遺族から寄贈され、既収蔵のコレクションの背景をより深く理解することを可能とする収集となった。
残された課題と今後の方向性	体系的な収集の観点から、書の各分野のバランスに配慮し、量的質的に拡充すべき分野の作品収集を検討する。 また、金子鷗亭の初期の優品及び北海道の書家の習作の充実を目指す。

※購入とは、道の収集基金等で購入したもの、管理換とは道の他部局から管理換されたものとする。

資料２

作品収集の成果と課題（各館の項目毎に作成）

館名：北海道立帯広美術館

項　　目	１　道東の美術
計　画　内　容	阿部貞夫、居串佳一、久本春雄など物故作家から現在活躍中の作家まで、道東地域の美術作品を地域的・時代的・分野的に幅広く収集する。
収集作品点数 （平成２１～２９年度）	３３点 （購入０点、受贈３３点、管理換０点）
主な収集作品 （平成２１年度～２９年度 ５点程度） ※作者名「作品名」（制作年）	佐野まさの「100本のマッチの中で最も美しい１本」（1979年） 中谷有逸「碑・古事記（アマノイワト考）」（2009年） 梅田マサノリ「compensation of balance #6」（1995年） 能勢眞美「ゴルフを遊ぶ庭」（1931年） 羽生輝「晩照（悠々釧路湿原）」（2014年）
主　な　成　果	道東の美術については、企画展を契機にするなどして、未収蔵であった十勝ゆかりの作家の作品を中心に収集するとともに、あわせて釧路、根室、オホーツク管内の優れた作家の作品を収集し、広がりをもたせることができた。
残された課題と今後の方向性	十勝ゆかりの未収蔵作家の作品も含め、広く道東４管内にわたる代表的な作家の作品の収集を継続し、コレクションの偏りを補完していくとともに、全体的にも充実を図る。

項　　目	２　プリントアート
計　画　内　容	近現代の版画、ポスターなどのグラフィック・デザイン、写真、その他複製技術を用いた表現など、国内外にわたり各分野のプリントアート作品を収集する。
収集作品点数 （平成２１～２９年度）	８４点 （購入０点、受贈８４点、管理換０点）
主な収集作品 （平成２１年度～２９年度 ５点程度） ※作者名「作品名」（制作年）	岡本和行「Flower Garden」（2009年） 小林敬生「陽はまた昇る　ー緑の星･08Dー」（2008年） 野田哲也「日記　1987年9月22日 柏市亀甲台」（1987年） 栗谷川健一「牧場の鐘」（1952年） 井田照一「Sazare-A-1」（1993年）
主　な　成　果	プリントアートについては、井田照一のまとまったコレクションを形づくることができたほか、国際的にも高い評価を得ている版画家たちの作品を収集することができた。 また、栗谷川健一のポスター原画や写真家･岡本和行の代表作を収集することができた。
残された課題と今後の方向性	近年の新たなメディアを駆使したプリントアートも含め、国内外で活躍する作家の代表作の収集を推し進める。 ポスター作品においては、昭和期から現代までの北海道ゆかりの作家の作品の収集に重点を置きながら、コレクションの充実を図る。

※購入とは、道の収集基金等で購入したもの、管理換とは道の他部局から管理換されたものとする。

資料２

作品収集の成果と課題（各館の項目毎に作成）

館名：北海道立帯広美術館

項　　目	３　西洋の美術
計　画　内　容	ルソー、ディアズ、ドービニーらバルビゾン派の油彩画をはじめ、田園風景や農村風俗を主題とした西洋の絵画・版画作品を収集する。
収集作品点数 （平成２１～２９年度）	０点 （購入０点、受贈０点、管理換０点）
主な収集作品 （平成２１年度～２９年度 ５点程度）	収集作品なし。
主　な　成　果	作品収蔵はなし。
残された課題と今後の方向性	バルビゾン派の油彩画、水彩画、版画、またバルビゾンの風景や風俗をモティーフとした写真作品について、それぞれ系統的にまとまりのあるコレクションとなるよう考慮しつつ、質、量ともに拡充を推し進めていく必要がある。

※購入とは、道の収集基金等で購入したもの、管理換とは道の他部局から管理換されたものとする。

資料２

作品収集の成果と課題（各館の項目毎に作成）

館名：北海道立釧路芸術館

項　　目	１　映像芸術
計　画　内　容	日本現代写真を中心に、国内外のすぐれた写真作品や映像作品を収集する。
収集作品点数 （平成２１～２９年度）	３０点 （購入０点、受贈３０点、管理換０点）
主な収集作品 （平成２１年度～２９年度 ５点程度） ※作者名「作品名」（制作年）	マイケル･ケンナ「メルズーガ、モロッコ」（1996年） 岩合徳光「タツノオトシゴの誕生」（1953年） 長倉洋海「ホータンで出会った踊り子」（2004年） 高田K子「Edge of Another World, Beppu, Oita」（2012-13年） 綿引幸造「中島と呼応する彫刻「意心帰」」（1988年）
主　な　成　果	「マイケル･ケンナ展」（平成21年度）、「地球どうぶつ写真展」（平成24年度）、「綿引幸造写真展」（平成26年度）等の企画展を契機に、北海道ゆかりの写真について多数の受贈が実現した。
残された課題と今後の方向性	写真については、北海道に限らず、国内外を視野に入れながらコレクションの系統性を高めていくことが課題である。 映像の分野では、現在のところ収蔵作品がないことから、作品調査と収蔵・活用上の問題（展示形態、保存方法、諸権利等）の整理を進めることが課題である。

項　　目	２　自然と芸術
計　画　内　容	自然は、古くから美術作品の発想の源泉であり、重要なモチーフである。現代社会において多様化している芸術表現に着目し、芸術と自然の関わりをとらえるコレクションを形成する。
収集作品点数 （平成２１～２９年度）	２点 （購入０点、受贈２点、管理換０点）
主な収集作品 （平成２１年度～２９年度 ５点程度） ※作者名「作品名」（制作年）	花田和治「SKI Ⅱ」（1989年） 同上　「冬のオホーツク（夜）」（2008年）
主　な　成　果	当館で開催した「気象と芸術」展（平成24年度）の出品作品が、作者から寄贈された。
残された課題と今後の方向性	この方針に基づく過去の収蔵作品は、現代日本の絵画や版画が中心であり、これらは寄贈による収集が困難である。 今後は、絵画と版画以外の分野についても調査の機会をとらえながら、現代における表現の多様性を視野に入れた収集活動に取り組むことが課題である。

※購入とは、道の収集基金等で購入したもの、管理換とは道の他部局から管理換されたものとする。

資料２

作品収集の成果と課題（各館の項目毎に作成）

館名：北海道立釧路芸術館

項　　目	３　地域と芸術
計　画　内　容	釧路・根室ゆかりの代表的な作家の作品をはじめ、地域と関連するすぐれた作品を収集する。
収集作品点数 （平成２１～２９年度）	１７点 （購入０点、受贈１７点、管理換０点）
主な収集作品 （平成２１年度～２９年度 ５点程度） ※作者名「作品名」（制作年）	中江紀洋「回帰（終章）」（2010年） 池田 緑「444の日」（2010年） 増田 誠「競馬」（1972年） 嶋崎 誠「縄文のベクトル」（2002年） 羽生 輝「暁照（北岬）」（2012年）
主　な　成　果	企画展を契機として、これまで未収蔵であった中江紀洋の平面作品、池田緑、増田誠、嶋崎誠の作品を収集した。 また、中江紀洋の彫刻と羽生輝の日本画は、これまで未収蔵であった時期の作品を収集するなど、コレクションの幅を広げ系統性をより高める収集が実現した。
残された課題と今後の方向性	受贈のみでは収集にふさわしい作家の網羅が難しく、収蔵作家の偏りが出る可能性があるため、幅広く系統的なコレクションの形成に向けて、地域の美術を継続的かつ適切な方法で収集することが課題である。

※購入とは、道の収集基金等で購入したもの、管理換とは道の他部局から管理換されたものとする。

資料３

収蔵作品活用状況
（平成２１年度～平成２９年度）

館名：北海道立近代美術館

ア　所蔵品展

年度	収蔵品総数（Ａ）	収蔵品展示・貸出数（Ｂ）	活用割合（Ｂ/Ａ×100）
２１	４，３３６	１，６３９	３７．８％
２２	４，３６５	１，３２３	３０．３％
２３	４，４１２	１，１６４	２６．４％
２４	４，５３７	９６３	２１．２％
２５	４，８１５	１，１８６	２４．６％
２６	５，０４７	９１２	１８．１％
２７	５，１１４	９６２	１８．８％
２８	５，１９２	１，０８５	２０．９％
２９	５，２１８	４５０	８．６％

（小数点第２位四捨五入）

イ　移動美術展

年度	収蔵品展示数	観覧者数	会場名
２１	３０	５３０	苫前町公民館　※旭美と共同
	３０	６５８	礼文町町民活動総合センター　※旭美と共同
２２	３０	９４８	月形町多目的研修センター　※三岸美と共同
	３０	２４９	長沼町民会館　※三岸美と共同
２３	４０	６９２	別海町中央公民館
	４０	３９６	西興部村公民館
	４０	３４６	福島町福祉センター
	４０	１，６９５	室蘭市民美術館
	４０	３８１	真狩村公民館
２４	２８	２０５	初山別村自然交流センター　※三岸美、旭美と共同
	２８	２５２	音威子府村公民館　※三岸美、旭美と共同
２５	２８	５３９	奥尻町海洋研修センター　※三岸美、函美と共同
	２８	３００	せたな町民ふれあいプラザ　※三岸美、函美と共同
２６	４０	７８４	更別村社会福祉センター　※三岸美、帯美と共同
	４０	１，２３２	足寄町民センター　※三岸美、帯美と共同
２７	４１	７０９	剣淵絵本の館　※三岸美、旭美と共同
	４１	１，４１４	登別市民会館　※三岸美、旭美と共同
２８	４０	１，１１１	網走市立美術館　※三岸美と共同
	４０	５５０	美唄市民会館　※三岸美と共同
２９	４５	８０３	今金町民センター　※三岸美と共同
	４５	６１５	江差町文化会館　※三岸美と共同

※複数会場で実施した年度は、スペースを広げて会場毎に記載する。

ウ　他美術館への貸出（延べ数）

第３期期間中の貸出作品数	道内美術館数	道外美術館数	備　　考
１８０件 ４，４９９点	９４（５５）件 ２，０２４ （４２９）点	８６件 ２，４７５点	国立アテネウム美術館（フィンランド）、パリ国立近代美術館（フランス）、Fundacion MAPFRE（スペイン）

※道立美術館・釧路芸術館以外への貸出がある場合は、道内美術館数欄に（内数）を記載。

※国外美術館への貸出がある場合は、道外美術館数にカウントし、備考欄に美術館名（国名）を記載。

資料３

収蔵作品活用状況
（平成２１年度～平成２９年度）

館名：北海道立三岸好太郎美術館

ア　所蔵品展

年度	収蔵品総数（A）	収蔵品展示・貸出数（B）	活用割合（B/A×100）
２１	２５３（３）	２６６（３）	１０５．１％
２２	２５３（３）	３０１（１）	１１９．０％
２３	２５３（３）	２１４（１）	８４．６％
２４	２５３（４）	２７４（６）	１０８．３％
２５	２５３（５）	４９４（６）	１５５．７％
２６	２５４（５）	３５８（７）	１４１．０％
２７	２５５（５）	３３９（５）	１３３．０％
２８	２５５（５）	２９２（５）	１１４．５％
２９	２５５（５）	２３１（２）	９０．６％

（小数点第２位四捨五入）

イ　移動美術展

年度	収蔵品展示数	観覧者数	会場名
２１			
２２	１０（０）	９４８	月形町多目的研修センター　※道近美と共同
	１０（０）	２４９	長沼町民会館　※道近美と共同
２３			
２４	３（０）	２０５	初山別村自然交流センター※道近美,旭川美と共同
	３（０）	２５２	音威子府村公民館　※道近美,旭川美と共同
２５	２（０）	５３９	奥尻町海洋研修センター　※道近美と共同
	２（０）	３００	せたな町民ふれあいプラザ　※道近美と共同
２６	２（０）	７８４	更別村社会福祉センター　※道近美,帯広美と共同
	２（０）	１，２３２	足寄町民センター　※道近美,帯広美と共同
２７	２（０）	７０９	剣淵絵本の館
	２（０）	１４５２	登別市民会館　※道近美、旭川美と共同
２８	６（０）	１，１１１	網走市美術館
	６（０）	５５０	美唄市民会館　※道近美と共同
２９	５（０）	８０３	今金町民センター
	５（０）	６１５	江差町文化会館　※道近美と共同

※複数会場で実施した年度は、スペースを広げて会場毎に記載する。

ウ　他美術館への貸出（延べ数）

第３期期間中の貸出作品数	道内美術館数	道外美術館数	備　　考
４１件	１４（８）件	２７件	
１６９点	１０４（２）点	６５点	

※道立美術館・釧路芸術館以外への貸出がある場合は、道内美術館数欄に（内数）を記載。

※国外美術館への貸出がある場合は、道外美術館数にカウントし、備考欄に美術館名（国名）を記載。

※ア～ウの（　）内は受託作品数（外数）

資料３

収蔵作品活用状況
（平成２１年度～平成２９年度）

館名：北海道立旭川美術館

ア　所蔵品展

年度	収蔵品総数（A）	収蔵品展示・貸出数（B）	活用割合（B/A×100）
２１	６３１	２１１	３３．４％
２２	６４１	２１２	３３．０％
２３	６４８	１２２	１８．８％
２４	６７０	３１１	４６．０％
２５	６８０	１６３	２４．０％
２６	６８１	９１	１３．３％
２７	６８４	１１９	１７．４％
２８	６８６	１３３	１９．３％
２９	６９６	１７０	２４．４％

（小数点第２位四捨五入）

イ　移動美術展

年度	収蔵品展示数	観覧者数	会場名
２１	９	５３０	苫前町公民館　※道近美、三岸美と共同
	９	６５８	礼文町町民活動総合センター　※道近美、三岸美と共同
２２			
２３			
２４	４	２０５	初山別村自然交流センター　※道近美、三岸美と共同
	４	２５２	音威子府村公民館　※道近美、三岸美と共同
２５			
２６			
２７	１９	７０９	剣淵町絵本の里　※道近美、三岸美と共同
	１９	１，４４２	登別市民会館　※道近美、三岸美と共同
２８			
２９			

※複数会場で実施した年度は、スペースを広げて会場毎に記載する。

ウ　他美術館への貸出（延べ数）

第３期期間中の貸出作品数	道内美術館数	道外美術館数	備　　考
２３件	１６（１０）件	７件	
２４１点	２２２(１８２)点	１９点	

※道立美術館・釧路芸術館以外への貸出がある場合は、道内美術館数欄に（内数）を記載。

※国外美術館への貸出がある場合は、道外美術館数にカウントし、備考欄に美術館名（国名）を記載。

資料３

収蔵作品活用状況

（平成２１年度～平成２９年度）

館名：北海道立函館美術館

ア　所蔵品展

年度	収蔵品総数（A）	収蔵品展示・貸出数（B）	活用割合（B/A×100）
２１	１，６７３（４０２）	１８２（６０）	１０．９％
２２	１，６８８（４０２）	２７３（３３）	１６．２％
２３	１，７０５（４０２）	８９（８７）	５．２％
２４	１，７６１（４０２）	１７８（４２）	１０．１％
２５	１，８０７（４０２）	２３１（１８）	１２．８％
２６	１，８２０（４０２）	２５９（４９）	１４．２％
２７	１，８３０（４０２）	３３８（３１）	１８．５％
２８	１，８３８（４０２）	４１１（６０）	２２．４％
２９	１，８４２（４０２）	１６２（３８）	８．８％

（小数点第２位四捨五入）

イ　移動美術展

年度	収蔵品展示数	観覧者数	会場名
２１			
２２			
２３			
２４			
２５	１１（０）	３００	奥尻町海洋研修センター　※道近美、三岸美と共同
	１１（０）	５３９	せたな町民ふれあいプラザ※道近美、三岸美と共同
２６			
２７			
２８			
２９			

※複数会場で実施した年度は、スペースを広げて会場毎に記載する。

ウ　他美術館への貸出（延べ数）

第３期期間中の貸出作品数	道内美術館数	道外美術館数	備　　考
２９件	２０件	９件	
２２７（７０）点	１４９(５４)点	７８（１６）点	

※道立美術館・釧路芸術館以外への貸出がある場合は、道内美術館数欄に（内数）を記載。

※国外美術館への貸出がある場合は、道外美術館数にカウントし、備考欄に美術館名（国名）を記載。※ア～ウの（　）内は受託作品数（外数）

資料３

収蔵作品活用状況
（平成２１年度～平成２９年度）

館名：北海道立帯広美術館

ア　所蔵品展

年度	収蔵品総数（A）	収蔵品展示・貸出数（B）	活用割合（B/A×100）
２１	６８４	２１５	３１．４％
２２	６９０	１２５	１８．１％
２３	７０２	２５８	３６．８％
２４	７０７	２２７	３２．１％
２５	７７１	１９７	２５．６％
２６	７８３	２８５	３６．４％
２７	７８５	２１６	２７．５％
２８	７９０	１８５	２３．４％
２９	７９８	１６１	２０．２％

（小数点第２位四捨五入）

イ　移動美術展

年度	収蔵品展示数	観覧者数	会場名
２１			
２２			
２３			
２４			
２５			
２６	１０	９０２	更別村社会福祉センター
	１０	１，４８０	足寄町民センター
２７			
２８			
２９			

※複数会場で実施した年度は、スペースを広げて会場毎に記載する。

ウ　他美術館への貸出（延べ数）

第３期期間中の貸出作品数	道内美術館数	道外美術館数	備　　考
２７件	２０（１１）件	７件	
２７５点	２０２（４６）点	７３点	

※道立美術館・釧路芸術館以外への貸出がある場合は、道内美術館数欄に（内数）を記載。

※国外美術館への貸出がある場合は、道外美術館数にカウントし、備考欄に美術館名（国名）を記載。

資料３

収蔵作品活用状況

（平成２１年度～平成２９年度）

館名：北海道立釧路芸術館

ア　所蔵品展

年度	収蔵品総数（A）	収蔵品展示・貸出数（B）	活用割合（B/A×100）
２１	９６	５６	５８．３％
２２	１０６	１０	９．４％
２３	１０７	３８	３５．５％
２４	１１３	３２	２８．３％
２５	１２２	９８	８０．３％
２６	１３５	７０	５１．９％
２７	１３６	７０	５１．５％
２８	１３８	６３	４５．７％
２９	１３９	１８	１２．９％

（小数点第２位四捨五入）

イ　移動美術展

年度	収蔵品展示数	観覧者数	会場名
２１	※全期間実施なし		
２２			
２３			
２４			
２５			
２６			
２７			
２８			
２９			

※複数会場で実施した年度は、スペースを広げて会場毎に記載する。

ウ　他美術館への貸出（延べ数）

第３期期間中の貸出作品数	道内美術館数	道外美術館数	備　　考
８件 ５８点	５　（２）件 ５４（３３）点	３件 ４点	

※道立美術館・釧路芸術館以外への貸出がある場合は、道内美術館数欄に（内数）を記載。

※国外美術館への貸出がある場合は、道外美術館数にカウントし、備考欄に美術館名（国名）を記載。

資料4

作品活用の成果と課題

館名：北海道立近代美術館

項　　目	
収蔵品展の開催	収蔵品展については、広く道民に鑑賞の機会を提供するため、毎回ポスターとチラシを制作し広報を強化するなどの取組みを行ってきた。 平成28年度より、予算的な事情から、「近美コレクション」展の年間開催数が減っているが、その分、「歌川国貞展」「片岡球子展」などの展覧会で活用を行っている。
移動美術展及び出張アート教室の開催	「移動美術展」は、平成21年度から29年度まで毎年開催し、開催地域によっては、近隣の道立館との連携も行っている。展示作品数、観覧者数は、当該開催地の施設の規模によって変わるものの、平均して32点、1,400人ほどを数えるなど、美術館から遠隔地に住む道民にも美術作品に触れる機会を提供した。 平成23年度に試行的に実施、翌年度から本格的に開始した「出張アート教室」は、49校2,341名に64点の作品を教材として鑑賞授業を行った。
館外への作品貸出し（館外での所蔵品展含む）	館外への作品貸出しについては、文化遺産として適切な保管と保存に留意しつつ、意義ある展覧会等のため、可能な限り協力してきた。 当該期間における貸出の総数は、3,750点、180館に上り、なかにはフィンランド、フランス、スペインなど海外の美術館も含まれるなど、広く国内外の文化活動、美術文化の向上に貢献している。 また、「北海道立近代美術館名品展　日本画逍遙展」など、当館名を冠した展覧会も、複数年にわたり多くの美術館で開催された。
他館との連携（道立館・他公私立館含む）	これまでも、作品の相互貸し借りや、調査研究、出版などのための作品情報の交換を継続的に行ってきた。 また、平成30年度から実施の「アートギャラリー北海道」に先がけて、小樽芸術村のコレクションを展示するなど、さらなる連携を図っている。
作品情報の提供（データの活用含む）	刊行物の発行や、他美術館、新聞、出版、テレビ等での掲載・放映希望にも応じるほか、平成26年に全面リニューアルをしたホームページや、Twitter、Facebookといったソーシャルメディア、メールマガジンなど、ウェブを利用して、より多くの人々に情報の周知を図っている。 また、当館ホームページ上で、所蔵作品データベースを活用して、当館を代表するコレクションの一つであるエコール・ド・パリの作家パスキンの全所蔵作品223点246データの公開等を行っている。
残された課題と今後の方向性	これまでの館外での活用として「移動美術館」や「出張アート教室」などに加えて、「アートギャラリー北海道」などの活動を通じて、当館の作品のみならず、道立の中央館として、北海道全体の文化財の効果的活用や、美術品の保存や作品情報の交換など、広く道内諸機関との連携強化をリードしていく必要がある。

資料４

作品活用の成果と課題

館名：北海道立三岸好太郎美術館

項　　目	
収蔵品展の開催	延べ36回（平成21～29年度）の所蔵品展を開催した。 主な所蔵品展は「音楽のある美術館1-6」（平成21～26年度）、「ユーモラス・三岸」（平成23年度）、「エキゾチック・サッポロ」（平成26年度）、「マ～ルとたんけん！ちいさなびじゅつかん」（平成28年度）などである。 また、特別展（計９回）においても三岸好太郎作品を展示した。
移動美術展及び出張アート教室の開催	道立近代美術館との共催による「移動美術展」は、平成22、24～29年度の計７回（14会場）に計28点の三岸作品を出品するほか、複製資料も活用して展示した。 「出張アート教室」は、平成23、28年度の２回（２校）に計２点の三岸作品を持参し、実物による鑑賞授業を行った。
館外への作品貸出し（館外での所蔵品展含む）	延べ貸出点数は、169点（平成21～29年度）である。 主な貸出先は、東京都美術館、岡山県立美術館、下関市立美術館、平塚市美術館、豊田市美術館、名古屋松坂屋美術館、一宮市立三岸節子美術館、道立近代美術館、道立旭川美術館、道立函館美術館、道立帯広美術館、札幌芸術の森美術館、ひろしま美術館、北海道立文学館などである。 特に「生誕110年　三岸好太郎展」（平成25年度）では、作品81点、資料10点を貸出し、三岸作品鑑賞の大規模な機会を提供した。
他館との連携（道立館・他公私立館含む）	「生誕110年　三岸好太郎展」（平成25年度）は道立函館美術館との連携で開催し、共同で調査・研究を進めた。 また、当館のパートナー館である一宮市立三岸節子美術館での「三岸節子展」には作品10点を貸し出したほか、道立美術館や道立文学館の特別展等においても各展のテーマに沿う作品や資料の貸出しに協力・連携し、三岸作品の鑑賞機会を拡大した。
作品情報の提供（データの活用含む）	美術館刊行物（年間事業案内リーフレット、チラシ、展覧会図録等）に所蔵作品の図版を掲載して各方面に配布するほか、新聞・雑誌・放送等のマスメディアや地域情報紙などに作品情報の提供を行い、毎年10数件から30数件、様々な印刷物、テレビ、ウェブなどに所蔵作品の図版・画像が掲載、紹介されている。 また、三岸好太郎に関する調査・研究者等にも、その照会に適宜応えて、作品情報等を提供した。 なお、当館のホームページにおいて、全三岸作品の基本情報を掲載し、うち主要24作品の画像、作品解説を公開している。
残された課題と今後の方向性	現状の所蔵点数・内容を踏まえ、多様な観点からのテーマ設定による所蔵品展を開催しているが、まとまった点数の貸出しや、特定の代表作の貸出しの要望には、対応に困難が生じることがある。 そのため、来館者の期待に応える館内展示の充実と、館外展による三岸作品の鑑賞機会の増大の意義とのバランスに配慮しながら、作品の活用を考えていく必要がある。 なお、館内外での作品活用及び鑑賞機会を高め、作品保存の観点からも、更に充分な量と質の所蔵品確保が望まれる。 作品情報の効果的な提供については、所蔵品図録の作成頒布、館のホームページやインターネット上での所蔵品検索と作品画像の公開点数を増加させることが検討課題である。

資料４

作品活用の成果と課題

館名：北海道立旭川美術館

項　　目	
収蔵品展の開催	「木の造形」、「道北の美術」、ジャンルを横断したテーマなどによる収蔵品展及び収蔵品を中心とした展覧会を、延べ28回開催した。 主な収蔵品展は、福井爽人展（平成24年度）、井田照一作品展（平成25年度）、さわってみて（平成28年度）、風水森をめぐるイメージ（平成28年度）、色とプレミアムコレクション（平成29年度）、アート・クイズ・ギャラリー（平成30年度）である。
移動美術展及び出張アート教室の開催	「移動美術展」は、北海道立近代美術館と共催で平成21年度、平成24年度、平成27年度に計６会場で実施した。 また、「出張アート教室」において平成24年度から平成29年度に各２校、計12校で収蔵作品を使った授業を実施している。
館外への作品貸出し（館外での所蔵品展含む）	延べ貸出し点数241点、件数23件（道内16件、道外７件）である。 主な貸出先は、北海道立近代美術館、滝川市美術自然史館、札幌芸術の森美術館、美術館連絡協議会である。
他館との連携（道立館・他公私立館含む）	広く美術館相互の作品の貸借を行っている。主要な貸し出しとしては平成22年度に北海道立近代美術館での「現代木彫の潮流」に27点を貸し出し、当館の「木の造形」コレクションを広く紹介する機会になった。 共同企画展も実施し、「世界の名作原画がやってきた」（釧路市立美術館、平成23年度）「ひろしま美術館所蔵　フランス近代絵画をめぐる旅」（北海道立函館美術館、平成28年度），「片岡球子のひみつ」（北海道立近代美術館、平成28年度）等がある。
作品情報の提供（データの活用含む）	平成24年度に所蔵品図録を作成した。その後の収蔵作品は毎年度年報に掲載し、道内外の美術館及び教育機関に送付している。 平成28年度からは年報データをホームページ上に掲載し、閲覧者によるダウンロードを可能にしたほか、館内の閲覧コーナーにも設置し、来館者の利用に資するなど、館外からの借用希望にも対応し、広く情報の提供を行っている。
残された課題と今後の方向性	特に、「木の造形」など重量や体積のある作品については、作品の展示・貸出し及び保管数を連動させながら活用を工夫していく必要がある。 インターネットを通じて展覧会情報を発信してるが、ネットは積極的にアクセスする対象者中心であるため、幅広い層への情報発信のためには、従来行ってきた展覧会図録やコレクション選のような出版物による記録と情報提供も重要な方策であり、積極的な予算確保に努める必要がある。 また、作品情報の活用、提供をすすめるため、収蔵作品の画像の本格的デジタル化も継続して取り組んでいくことが必要である。

資料４

作品活用の成果と課題

館名：北海道立函館美術館

項　　目	
収蔵品展の開催	「ミュージアム･コレクション」を延べ43回、特別展示室で「ミュージアム･コレクション･スペシャル」を８回開催した。 開館30周年記念の平成28年には「ハコビ･グランド･セレクション」として、「道南の美術」「書」「文字と記号に関わる現代美術」の各テーマの秀作を一堂に紹介した。 平成29年からホールに「アートにタッチ」コーナーを設け、触れて鑑賞できる彫刻４点を拡大文字とともに展示するほか、平成28年度からホールで開催を始めた茶会では、当館の軸、屏風、茶碗、香合を実際に使用した。
移動美術展及び出張アート教室の開催	「移動美術展」は、平成25年度に道立近代美術館との共催で奥尻町、せたな町で11点を展示した。 平成24年度から実施の「出張アート教室」は、10校456名に28点の作品を教材として鑑賞授業を行った。
館外への作品貸出し（館外での所蔵品展含む）	作品貸出しは28件、道内外の美術館34館に所蔵作品247点、受託作品94点、を貸出した。 当館のコレクションの重要な核のひとつである金子鷗亭の書作品はもとより、函館生まれの洋画家・長谷川潾二郎の作品をまとめて道外美術館の巡回展に貸し出したり、松前生まれの日本画家・山口蓬春の秀作を蓬春記念館に貸出すなど、日本の近代美術史に確かな足跡を刻んだ画家の回顧展において重要な作品としての貸し出しであった。
他館との連携（道立館・他公私立館含む）	道立帯広美術館との企画「文字とアートの素敵な関係」（平成21年）、滝川市美術自然史館、帯広百年記念館と当館のコレクションによる「上田桑鳩・金子鷗亭・桑原翠邦　現代書ー北に輝く三巨星」展（平成25年）、市立函館博物館、函館市中央図書館の秀作を購入作品とともに展示した「蠣崎波響展」（平成28年）など、道内の美術館と連携したほか、当館、豊橋市美術博物館、奈良県立美術館の共同企画による「そっくりの魔力」展（平成29年）により、当館のコレクションを広く道外に紹介した。 平成29年度から高龍寺、市立函館博物館、旧相馬邸と連携して「波響ぐるっと４館ツアー」を開催し、作品を巡回するのではなく、参加者自体が巡り歩いて地域の宝を学ぶ機会を創出した。
作品情報の提供（データの活用含む）	平成24年に『北海道立函館美術館収蔵作品目録』所蔵作品編、受託作品編、平成27年に新版の『要覧』、平成28年度には開館30周年記念『コレクション50選』を刊行し、広く当館のコレクションを周知した。 マスコミや出版等の掲載・放映希望に応じ、画像写真の貸出しや作品情報、解説を提供するほか、当館のコレクションによる『道南版アート・カード』の発行や、常設展でのワークシート作成を通じて、当館のコレクションを学習する素材を提供した。
残された課題と今後の方向性	ホールでの「アートにタッチ」、お茶会イベントでの作品使用など、展示室以外の空間での柔軟な活用について、継続して模索していく。 また、「波響４館ツアー」を始め、美術館以外の文化財を所蔵する施設など地域との連携を通じて、当館のコレクションのユニークな活用につなげていく必要がある。

資料４

作品活用の成果と課題

館名：北海道立帯広美術館

項　　目	
収蔵品展の開催	常設展示室（「コレクション･ギャラリー」）において延べ33回、主展示室において延べ15回の収蔵品展及び収蔵品を中心としたテーマ展を開催した。 主な収蔵品展は「ベル・エポックのポスター」（平成24年、主展示室）、「20世紀のプリントアート」（平成25年、主展示室）、「美術のみ・か・た　７つの扉」（平成26年、主展示室）、「帯広美術館物語」（平成28年、主展示室）ほか、所蔵品中心のテーマ展は「十勝の美術100年」（平成26年、主展示室）ほかである。
移動美術展及び出張アート教室の開催	「移動美術展」は、平成26年に更別村社会福祉センター及び足寄町民センターで開催した。近代美術館、三岸好太郎美術館と当館の共催であり、当館からは10点の所蔵作品を出品した。 所蔵品活用と学校連携を目的とした、所蔵品を使っての授業「出張アート教室」は、平成24年（２校）、平成25年（３校）、平成26年（２校）、平成27年（２校）、平成28年（２校）、平成29年（２校）開催した。
館外への作品貸出し（館外での所蔵品展含む）	延べ貸出作品数は275点、延べ貸出館数は27館（道内20館、道外７館）である。 主な貸出先は、北海道立釧路芸術館、北海道立近代美術館、神田日勝記念美術館、札幌芸術の森美術館、岩手県立美術館、ハウステンボス美術館・博物館、馬の博物館などである。
他館との連携（道立館・他公私立館含む）	近代美術館所蔵品による企画展は「高橋博信浮世絵コレクション」（平成21年）、「シャガール、パスキンとエコール･ド･パリの綺羅星たち」（平成23年）を開催した。 連携企画として函館美術館との「風景に、浸る。自然と、遊ぶ。」（平成23年）がある。 出品協力は、市立函館博物館などから「はな展」（平成21年）、札幌芸術の森美術館などから「FACE/わたしとあなた」（平成29年）、近代美術館から「バルビゾン－19世紀の絵画と写真」（平成27年）である。
作品情報の提供（データの活用含む）	所蔵品図録（「北海道立帯広美術館所蔵品図録2011」平成23年）を発行した。 各年度の収集作品は、「年報」に掲載し、道内外の美術館、教育機関等に等に送付し周知を図っている。 また、館内に「情報コーナー」を設け、所蔵品などの情報を提供しているほか、新聞、雑誌、テレビ、ホームページ等を通して、主に所蔵品展出品作品を中心に広く周知を図っている。画像の提供については、利用者の申し出により随時対応している。
残された課題と今後の方向性	美術館の核である所蔵品を、これまでになかった見せ方を模索するなど、その魅力をアピールしていくことが一層求められる。 平成23年度以降に収集した作品の情報を周知するため、新たな所蔵品図録の作成が必要である。 また、各報道機関等との連携や電子媒体の効率的な活用により、所蔵作品の情報の周知を一層進めていく。

資料４

作品活用の成果と課題

館名：北海道立釧路芸術館

項　　目	
収蔵品展の開催	当館には常設展示スペースがないため、収蔵品の展示は、展示室における年１、２回の所蔵品展において実施している。 所蔵品展においてはテーマ、分野、あるいは子ども向けの教育的内容など、企画の多様化に努めている。 この10年間に作品数は90点から139点に増加したが、コレクションとしてはまだ小規模であり、また、作品の分野に偏りが大きいため、所蔵品展の内容に大きな変化を持たせて魅力アップを図ることが難しい。その一方、観光客など遠方からの来館者に所蔵品を見てもらうには、機会が限られている状況にある。
移動美術展及び出張アート教室の開催	他の道立館との共催による「移動美術展」はこの間実施がなかった。 当館独自の「移動芸術館」事業として、25年度、根室市総合文化会館にて、同館開館20周年記念「根釧の美術展」を開催（主催は同館並びに当館）。当館所蔵品31点を展示し、５日間の会期中、観覧者数は853人を数えた。 また、「出張アート教室」は平成24年度２件（別海町、白糠町）、平成25年度２件（釧路市、別海町）、平成26年度２件（いずれも別海町）、平成27年度２件（釧路市、根室市）、平成28年度２件（別海町、釧路町）、平成29年度３件（釧路市、標津町、釧路町）を実施し、のべ21点を活用した。
館外への作品貸出し（館外での所蔵品展含む）	８件58点の貸出を行った。58点には写真のシリーズものが含まれているため、個別の作品数は308点である。 特に、網走市美術館と安曇野市豊科近代美術館では当館の写真コレクションのみで展覧会を開催しており、また、岩橋英遠の日本画「彩雲」は美連協25周年「日本の美術館名品展」や岡山県の笠岡市立竹喬美術館の岩橋英遠展に出品している。
他館との連携（道立館・他公私立館含む）	道立他館所蔵品の活用としては「世界のおもしろカップ」（平成22年度）、「気象と芸術」（平成24年度）、「パリ・時間旅行」（平成27年度）、「画家たちの夢、パリ」（平成28年度）、「ももちゃん芸術祭2017」（平成29年度）を開催した。 その他、新冠町レ・コード館の所蔵品による「レコードジャケット展」（平成24年度）、東川町写真コレクションによる「写真のフロンティア」（平成28年度）、根釧地域の自治体と連携しその多彩なコレクションを紹介する「我が町のお宝展」（平成27年度～白糠町、標茶町、弟子屈町）を開催した。
作品情報の提供（データの活用含む）	作品情報を提供する主な機会は、所蔵品展のための印刷物（ポスター、チラシ、出品目録等）やホームページ、フェイスブック（平成29年度より開設、ボランティアの会ＳＯＡ名義）、新聞・雑誌記事、及び図録を常置する閲覧コーナー等である。 また、外部からの作品画像使用希望に対しては、目的等を確認しながら積極的に使用に供している。
残された課題と今後の方向性	コレクションの質及び量の充実と、常設展示室を持たない当館で来館者が所蔵品に親しむ機会の拡充を図ることが、活用にあたって大きな課題である。 展示向きの部屋として「フリーアートルーム」（約115平方メートル）がある。外部への部屋貸出、遮光と防犯、湿度調整の限界、展示用具の使用制限等の課題はあるが、当館の展示事業全体のなかで所蔵品紹介のためのフリーアートルームの活用可能性を、今後探っていきたい。